

令和7年度串間市立金谷小学校 学校関係者評価書

学校経営ビジョン：豊かな心を持ち、自ら考え、正しく判断し、進んで実践するたくましい児童の育成

【評価】4:十分にできている、3:おおむねできている、2:あまりできていない、1:ほとんどできていない

重点目標	評価項目	平均(4点満点)					考察及び改善策	評価委員	学校関係者評価委員の意見	
		児童	保護者	職員	平均	総合				
確かな学力の向上【知】	① 学校は、「ひなたの学び」を基本とした積極的な授業改善による学力(特に読む力・書く力)の向上及び個別最適な学びの工夫に努めている。	3.1	3.5	3.1	3.2	3.4 +0.1	<p>総合評価は、4点満点中「3.4」で、達成率は85%である。</p> <p>①について、県教委が推進する「ひなたの学び」を実現するために、学力調査の分析などに取り組んでいる。昨年度からPTAに半額負担していただいた学習ソフト等を活用し、児童一人一人の達成度に応じた、個別最適な学びの育成に取り組んでいる。今後は、学力テスト結果の分析を通して、児童の弱点の補強に努めていくとともに、次年度も学習ソフトも活用し、一人ひとりの学力向上を図っていく。</p> <p>②について、今年度は、金曜日を「ドッキン読書の日」と設定し、読書教育を推進してきた。金曜日は、朝の時間にボランティアによる読み聞かせ、給食後に15分間の読書タイム、家庭では「家読(うちどく)」を実施した。この他に、家庭教育学級で市立図書館職員による親子向け読み聞かせ講座、委員会児童による書籍紹介(ビブリオトーク)、絵本作家による児童向け講話等、本に親しむ環境づくりに努めた。今年度は、全校で読書目標冊数を1,165冊と設定した。1月13日現在、全校で451冊と昨年度より少なくなっているが、これは、学校図書館だけでなく市立図書館から本を借りる機会が増えたことによるものと考えられる。児童の実態としては、読書習慣についての児童評価は、昨年度より0.5ポイント増え(3.1)、達成率は14%上がり(78%)であった。次年度も今年度に引き続き読書教育を推進し、学力向上と豊かな心の育成を目指していく。</p> <p>③について、俳句や詩、絵画等のコンクールへ積極的に応募し、数多くの入賞を果たすことができた。表現力の向上を図るため、毎月の「俳句の時間」の確保や「俳句月間賞」の表彰、給食時の作品紹介などを継続している。今後もこれらの活動を通じ、児童が自己の表現に自信を持てるよう、指導の充実に努めていく。</p>	3.9	<p>児童数が少ないことを利点と捉え、教師の目が一人一人にしっかり届いている。それぞれの達成度に応じたきめ細やかな学習指導が行われている点は、高く評価できる。近年、全国的に課題となっている「読み書き能力」の向上に向け、現在の丁寧な指導が成果として実を結ぶことを期待する。</p> <p>小学校時代からの読書習慣は、表現力や理解力の基礎となる。学校として明確な目標を定めて取り組んだ結果、読書が習慣化している点は素晴らしい成果である。ボランティアによる「読み聞かせ」も、子どもたちの本への関心を高める大きな原動力となっていると思われる。</p> <p>コンクール応募や、新聞・ラジオでの紹介は、子供たちにとって大きな自信と継続の意欲につながっている。メディア等で「金谷小」の名前を目にするのは、地域住民にとっても大きな喜びであり、誇りになっている。自分の考えを文章にする機会を、今後も大切に継続してほしいと思う。</p>	
	② 学校は、読書の時間や家読等による読書の習慣化に努めている。	3.1	3.8	3.5	3.4					+0.2
	③ 学校は、集会における発表や各種作品応募による表現力の育成に努めている。	3.1	4.0	3.7	3.6					+0.1
危機回避能力と豊かな心の育成【徳】	④ 学校は、命を大切にする教育や人権教育、異学年交流による思いやりの心の育成(いじめ防止対策の徹底を含む)に努めている。	3.3	3.4	3.6	3.5	3.5 ±0	<p>総合評価は、4点満点中「3.5」で、達成率は87.5%である。</p> <p>④について、毎月の児童アンケートや教育相談、職員による「ハートフル委員会」を通じ、児童の細かな変化を全職員で共有し、即応できる体制を構築している。加えて、県警本部職員を講師として児童や保護者を対象とした学校保健委員会の「非行防止教室」や、宮崎法務局日南支部や日南人権擁護委員を招いた5・6年生の人権学習、職員向けゲートキーパー研修を実施し、多角的な視点から理解を深めてきた。今年度は、全校で読書目標冊数を1,165冊と設定した。1月13日現在、全校で451冊と昨年度より少なくなっているが、これは、学校図書館だけでなく市立図書館から本を借りる機会が増えたことによるものと考えられる。児童の実態としては、読書習慣についての児童評価は、昨年度より0.5ポイント増え(3.1)、達成率は14%上がり(78%)であった。次年度も今年度に引き続き読書教育を推進し、学力向上と豊かな心の育成を目指していく。</p> <p>⑤について、年6回の避難訓練を通じ、地震や津波、不審者対応など、児童・職員の危機管理意識の高揚に努めてきた。交通安全指導員による交通安全教室も実施した。警察・消防署、消防設備会社等から、訓練時の児童の様子等について良い評価を得ている。今後も月1回の集団下校時の指導を充実させ、校内だけでなく登下校時も含めたあらゆる場面において、児童が自ら判断し、命を守る行動がとれる「実践力」の育成を図っていききたい。</p> <p>⑥について、全校集会での啓発や振り返りカードの掲示を通じ、規範意識の定着を粘り強く呼び掛けてきた。自己評価(2.8)や達成率(70%)にはさらなる向上の余地があり、意識を実際の行動へつなげることが今後の鍵である。今後も、スクールワイドPBS(失敗や誤りの指摘だけではなく、正しい行動の習慣化を支えるアプローチ)を柱に、児童の善い行動を認め励ます肯定的な関わりを大切にしながら、誰もが自信をもって正しい生活習慣を実践できる姿を目指していききたい。</p>	3.6	<p>命の大切さや人への思いやりが、児童にしっかりと根付いている。小規模校ならではの良さが発揮され、「上級生から下級生への気配り」や「下級生から上級生への敬意」など、学年を超えた仲の良さや信頼関係が築かれている。地域住民に対しても、元気で大きな声で挨拶ができるなど、明るいコミュニケーションが取れている。</p> <p>定期的な避難訓練の実施など、学校が常に危機管理に努めている点は高く評価できる。訓練を重ねることで、緊急時でも冷静に「命を守る行動」ができる力が養われている。地域住民や保護者による見守りや声かけも、日常的な安全確保に役立っていると思われる。</p> <p>校内での取り組みだけでなく、下校後や休日など、学校外での生活面(特に交通安全など)についても、あらゆる機会を通じて注意喚起を継続し、徹底していただくよう期待する。</p>	
	⑤ 学校は、避難訓練、集団下校等による危機回避能力の育成に努めている。	3.8	3.9	3.7	3.8					+0.2
	⑥ 学校は、凡事徹底(挨拶・返事・言葉遣い・片付け・親切な行動等)の取組を含めた基本的な生活習慣の定着に努めている。	2.8	3.7	3.5	3.4					±0
たくましい体の育成【体】	⑦ 学校は、スクールスポーツプランによる体力の向上に努めている。	3.2	3.3	3.1	3.2	3.3 +0.1	<p>総合評価は、4点満点中「3.3」で、達成率は82.5%である。</p> <p>⑦について、朝の会でのストレッチ活動などを通じ、日常的な体力づくりを継続的に推進している。体力テストの結果、女子の「長座体前屈」をはじめ、男子のシャトルランや全校共通の課題であるボール投げについては、引き続き重点的な強化が必要である。今後は、体育の授業改善や昼休み時間の外遊びの奨励を行いながら、運動することの心地よさを味わわせながら、主体的に体力向上を目指す児童の育成に努めていききたい。</p> <p>⑧について、養護教諭を中心に食育や健康指導の充実に努めており、串間中学校の栄養教諭と連携した学級担任とのT.T(ティームティーチング)授業を各学年で年2回実施している。あわせて保健だよりを通じた家庭への啓発も継続している。むし歯治療率は58.3%(治療中含む)であり、未治療の家庭へさらなる受診勧奨が必要で、児童の健康についての意識を高めたい。今後は、健康に関する知識を日々の行動へつなげる実践力を養い、健康的な生活習慣が自律的に定着するよう支援や家庭への啓発を進めていききたい。</p>	3.4	<p>放課後や屋外で遊ぶ児童の姿が以前より減っており、運動の機会が学校の体育時間に限定されがちな現状に懸念がある。子どもたちの体力低下を防ぐためにも、「健康は体力作りから」という意識を共有していく必要がある。健やかで幸せな生活の基盤となる「健康な体」をつくるため、学校生活全体を通じた体力作りの促進を期待する。</p> <p>共働き世帯や核家族の増加、さらには近隣医療機関の減少といった社会環境の変化により、家庭での受診調整(治療勧告への対応)が難しくなっている背景が推察される。児童の健康を守るため、学校と家庭が密に連絡を取り合い、早期受診や治療に対する意識の向上に努めていくことが重要だと感じる。</p>	
	⑧ 学校は、食育指導や健康指導による健康的な生活習慣の定着に努めている。	2.9	3.8	3.5	3.4					+0.2
開かれた学校づくりの推進【連携】	⑨ 学校は、総合的な学習の時間(くしま学を含む)の学習を中心とした「くしま愛」の育成に努めている。	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6 +0.3	<p>総合評価は、4点満点中「3.6」で、達成率は90%である。</p> <p>⑨について、春の遠足での金谷地区ウォークラリーの実施をはじめ、1・2年生の生活科や3～6年生の総合的な学習の時間において、地域を題材とした学習活動が着実に充実してきている。今後も、各教科と地域を題材とした学びのつながりを一層深め、児童のさらなる成長を促す学習活動の整備に取り組んでいきたい。</p> <p>⑩について、これまでの活動に加え、5・6年生が金谷地区の歴史について地域の方から学ぶ総合的な学習の時間や1～4年生の「あすか園」訪問による交流学習、学習田での田植え・稲刈り体験、下弓田教会とのグラウンドゴルフ交流会、地域の方とのもちつき大会など、地域施設や人材を題材にした学習の場を幅広く設けてきた。これからも、保護者や地域の皆様の思いや願い等を反映させながら、地域と一体となった金谷小学校ならではの豊かな学習の創造に努めていきたい。</p> <p>⑪について、毎月の「学校便り」の発行や定期的なホームページの更新を継続し、金谷小学校の教育活動の広報に努めている。150周年記念発表会等の行事で来校された地域の方々にホームページの紹介を行ったことで、閲覧者数も着実に増加している。今後も、教育活動の積極的な情報発信に努め、地域に開かれた小学校としての役割をしっかりと担っていききたい。</p>	4.0	<p>校区内を歩く「ウォークラリー」などの体験活動は、自分たちの住む地域を深く知るための優れた取り組みである。地域を学び、愛する心を育む学習プログラムとして高く評価できる。</p> <p>農業体験や地域交流会は、児童にとって貴重な学びになるだけでなく、普段子どもと接する機会の少ない地域住民にとっても「元気をもらえる」大切な場となっている。地域の方々と共に汗を流した経験は、将来児童が成長した際の心の糧となる。こうした多世代交流を伴う学習を今後も大切に継続してほしいと願っている。</p> <p>学校ホームページや「学校だより」を通じたタイムリーな情報発信は、地域・保護者の大きな楽しみとなっている。多忙な業務の中、工夫を凝らして広報に努める教職員の姿勢に感謝している。学校の様子が可視化されることで安心感につながっている。現在の充実した広報活動の継続をお願いしたい。</p>	
	⑩ 学校は、授業等における外部人材や地域素材の活用に努めている。	2.9	3.7	3.7	3.4					+0.3
	⑪ 学校は、学校便りや学校WEBによる広報活動の充実に努めている。	3.3	3.8	3.9	3.6					+0.2